

豊丘村立豊丘南小学校

社会科 5学年

単元名 「これからの工業生産とわたしたち」

授業者 平澤 展 (5年1組担任)

指導者 高野 昌生 (東信教育事務所指導主事)

1 本時の主眼

日本の工業生産について学習してきた子どもたちが、これからの日本の工業生産の発展にとって大切なことは何かを考える場面で、様々な視点の中で一番大切だと思うものについて根拠をもとに友だちと伝え合うことを通して、多角的に物事を考え、自分の考えを深めることができる。

2 視聴覚機器の役割

使用端末：Chromebook

使用アプリ：Canva

5年生は、社会の授業において「Canvaシート」を活用し、簡易的に自分の考えを整理して友だちと共有し、伝え合いながら考えを深めていくという学習活動を継続してきた。Canva上で自分の考えを書いていくことで、思考した内容が分かりやすく整理・可視化され、他者に自分の考えをスムーズに伝えることができた。また、短い時間で多くの友だちの考えにふれることができたことで、多角的な視点を得たり、他者の考えを受け入れたりし、自分の意見を修正・発展させることにつながった。

3 授業の概要

段階	主な活動内容
導入	単元全体の振り返りと課題確認 1. これまで学習した日本の工業の課題点を確認。 2. 前時の「工業発展のために大切だと思う視点(ランキング)」を確認し、本時の課題につなげる。
展開	考えの追究と共有・練り上げ 1. 同視点グループ追究 同じ視点を選んだ仲間と集まり、選んだ理由や根拠を共有する。 2. 全体共有と個人追究 グループで出た意見を全体で紹介し、自分と異なる視点や異なる根拠を見て、自分の考えを練り直す(変更・明確化・新たなものにする・強固にする)。
まとめ	考えの統合と振り返り 1. 消費者や生産者の立場から多角的に考え、「これからの工業生産の発展に何が大切か」という最終的な自身の考えをまとめる。 2. 振り返り：「今の自分や未来の自分にできること」や「さらに学んでみたいこと」を考える。

4 研究会の要点

成果

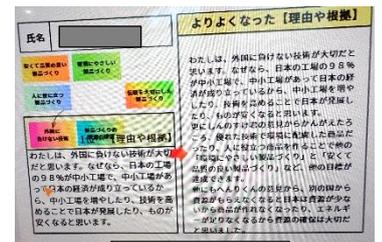
- ICT (Canva) を活用することで、子どもが自分の思考を整理・可視化し、それを協働して練り上げる活動が促進された。
- 子どもたちの根拠に基づいた論理的な思考や、他者の意見を参考にして考えを深める(練り直す)主体的・対話的な学びの姿勢がみられた。

課題

- 子どもの学びをさらに深めるために、授業の時間配分を見直し、振り返り(まとめ)の時間を十分に確保することが重要である。
- 「なぜそう考えるのか」という深い対話がグループ内で生まれるためにも、教師からの効果的な問いかけや、子どもの実態に合わせた課題設定の工夫をしたい。



グループ追究の様子



Canva シート

5 指導者の助言

① 授業内容の難しさへの支援

今回の活動内容は抽象度が高いうえ、消費者・生産者の多面的な視点で考える必要があり、5年生にとって難しかったと思われるが、地元の教材を扱ったり、消費者・生産者の視点を示したりすることで、子どもたちの思考を支援することができた。

② ICTの利活用

ICTの利活用は、「どの子も考えをもてる」状態を実現するために有効であるが、共有して終わりにするのではなく、共有した先に何を考えるかが重要である。例として、ランキングだけを共有して理由をあえて共有しない、または、ランキングの変化だけを共有するなど、対話をうながすための共有方法を工夫したい。

③ AIの活用

生成AIを授業で活用する場合、生成AIが「答え」とならないよう、例えば「Chat GPTはこう言っているのが本当かな？」と検証の入り口として使うこともできる。

6 今後の課題

① ICTと対話の両立

ICTで意見を共有した先に、「あの人はなぜそう考えるのか聞いてみたい」という友だち同士で深い対話が生まれるような授業づくりを進めたい。そのためには、聞くときのポイントを示すなど、意見の「見方」を鍛えられるような教師の働きかけが必要である。また、適切な課題設定や子どもたちが共有する内容をあえて制限するような、対話を促す仕掛けづくりを行ってきたい。

② ねらい・めりはり・みとどけ

今回、授業づくりの基本である「ねらい・めりはり・みとどけ」を意識することの大切さに立ち返ることができた。どの授業でも、追究場面で深まった意見や新たな視点を、授業の終末で改めて自分自身の考えに照らし合わせ、さらに深めることができるように、ねらいを明確にし、軽重をつけためりはりのある授業づくりを意識していきたい。